

高知カツオ県民会議 カツオ消費・漁業分科会(第17回)議事録

日時:令和2年11月27日(金)15~17時 場所:サニーマート本社会議室

出席者(敬称略)	氏名	特別出席(資源調査保全分科会)	
株式会社サニーマート	中村 彰宏	高知大学	受田 浩之
高知かつお漁業協同組合	中田 勝淑	高知大学	市川 幸
旭食品株式会社	福島 徹	株式会社四国銀行	山本 紫乃
明神水産株式会社	明神 睦		
土佐魚類 株式会社	森國 正義		
土佐魚類 株式会社	新川 明		
大熊水産株式会社	高島 克季	株式会社サニーマート	八木 良文
株式会社エースワン	石川 裕章	(事務局)サニーマート	眞鍋 隆裕
高知工科大学	浜田 正彦	※順不同	14名

議題および各議事録

1. 開会にあたり挨拶

- ・ 中村座長より開会の挨拶
 - コロナ禍により2月以来の分科会の開催、様々な意見を求む
 - これまでの会議で知見を深めてきたが大きな問題は依然として手つかずの状況がある
- ・ 受田会長代理より挨拶
 - 4年にわたる県民会議の活動紹介、各分科会の取り組む方向を報告
 - 本年度の幹事会や、先日開催のオンラインセミナーについての報告
 - 消費漁業分科会に初参加、今後の県民会議の発展につながる忌憚のない意見を求む

2. 直近の主な活動を報告(主は事務局より行い、補足は受田会長代理、中田副座長より)

- ・ 幹事会
 - コロナ禍により総会を遅れて開催。年度も切り替わり、本年度の活動計画が出来上がりつつある
 - カツオマイスターのロゴ利用等で商標登録の課題が出たため解消に向け進めている
- ・ オンラインセミナー
 - 第一回、第二回の様子を報告
 - 開催されたことを知らない会員も多く、情報の伝達に課題がある。
 - セミナーの記録を動画で配信できるよう準備中である。
 - 第三回が12月に予定されている。

3. カツオの状況や取り巻く環境変化についての情報共有ならびに課題の提言など意見交換

- ・ 漁業の状況
 - 新聞報道にあるように近海はカツオの漁獲が減り、単価も下がった。年々釣れなくなっているが今年は特によくなかった。
 - 一方でビンナガマグロはこれまでにない豊漁だったが、来年も同じような状況は期待できない

- カツオ船が3隻ほど減ることが決まっており、一部での豊漁といったニュースで厳しい船主の状況が隠れてしまわないように知ってもらいたい。
- ・ 市場の状況
 - 3キロあたりのサイズが少なく、小型のカツオが多いが、値が付かないことが多い。
 - 入荷したカツオは身質や状態を確認しているが、脂ののったカツオが多く入荷している
 - 船によってカツオの美味しさが違う。冷やし方や扱い方などで品質に差がでている
- ・ 小売りの状況
 - コロナ禍で生活が一変し、内食需要の増加で魚の消費も押し上げられ、魚食が増えた。
 - カツオを購入する世代はシニア世代が3分の2を占めており、サーモンになると2分の1程度。
 - カツオの売れ行きは、5月連休や8月盆の客足が影響し、大きく前年を割れこんだ。
 - 今も沿岸からのカツオの入荷が続いているが、これほど遅くまで入荷があることが珍しい。
 - 小型が多いことで低単価となり、買いやすい値段で消費者には提供できたが、一方で商品としては傷みや早く、味の深みが弱いなどのデメリットもあった。
 - 外食需要減によりカツオ以外の高級魚などが安く買える状況だったことで、他の魚種も販売した。
 - 商品価値のつけ方、目利きで丁寧に良さを伝えることが、スーパーでの鮮魚の課題。

各意見

- ◇ 魚の状況や資源に対し、回復や元に戻ると考えがちだが、強い外的要因もあって、今も既に変化してしまった。コロナ禍の状況も同様。これから先、時が戻るわけではなく、変化していくしかない。では何ができるかということに向き合う時になった。
- ◇ リンゴ1箱からバラで販売する際には入数で割って平均単価で販売しがちだが、一個一個成長も美味しさも違っており、価格のつけ方としては正しくない。カツオにも同じようなことが言える。これをなんとかできるのは目利きの成長と、問題意識だろう。
- ◇ 海の状況は、山や陸も同様、漁業や流通の課題は農業にも共通している。安定した品質を効率的に生産したい考えと、こだわりで差別化する考えの両方のなかでバランスを悩んでいる。
- ◇ 食育や魚食授業などは、消費者や関係者に意識をもってもらうために有効な手段。すぐに解決できないこともたくさんあるが、知ってもらい、意識してもらい続ける必要がある。
- ◇ ビンナガはカツオ船にとって重要。カツオだけに拘らず未来に紡ぐ要素として考えるべき。

4. その他

- ・ 分科会の事務費について
 - 毎年度の事務局費負担があるが、本年度はようやく分科会を行えたぐらいで活動が少なくなることは間違いないため、本年度の事務局費用は受け取らず前年度からの繰越金の範囲で活動する

5. 次回の予定について

- ・ 資源調査保全分科会との合同会議を検討したい。そのことで新しい情報や問題意識が期待できる。
- ・ 消費漁業分科会としては、1月最終週あたりが候補(1/28, 29)だが、合同分科会とコロナ禍の状況を見ながら設定するようにする。

以上